

令和3年度 富屋小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

（1）基本目標

豊かな心と健やかな体を持ち、自ら考え進んで学び、次代をたくましく生きる児童の育成

（2）具体目標（具体的な児童生徒像など）

富屋の子：元気・根気・思いやり

○元気でやりぬく子 ○自分で考え進んで学ぶ子 ○仲間のために考えはたらく子

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

－地域に根ざし、児童が生き生きと活動する学校の創造－

富屋地区の特性は、恵まれた自然、豊かな歴史と文化、地域の人々の強い絆である。これらを基盤とした「潤いと活気あふれる学校づくり」に取り組み、児童が郷土を愛し、自立して力強く生きていくための「確かな学力・豊かな心・健やかな体」を育むことを目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印。

- （1） 地域の特性や教育力を生かした特色ある教育活動の推進
- （2） 道徳科の授業や体験活動を中核に、自他の生命を尊重し、感謝や思いやりなどの豊かな心を育成するための教育活動の推進による、いじめを生まない指導の充実
- （3） 自信や自己有用感を育成するため、積極的に児童一人一人のよさを認め励ます教育の推進により、居がいのある温かい雰囲気 of 学級経営等による、不登校を生まない支援の充実
- （4） 学ぶ意欲の向上と基礎・基本の確実な定着を図り、主体的に学ぶ態度の育成とともに、学習課題をはっきり理解させ、見通しを大切に「わかる授業」の一層の充実
- （5） 基本的な生活習慣の確立と社会性の育成を図る児童指導の充実
- （6） 自らの健康を大切にする能力や自己の安全を守る能力の育成
- （7） 勤務時間を意識した働き方の推進と、教育公務員としての使命感と誇りをもって、自らの資質の向上に努める職員研修の充実
- （8） 地域に開かれ、信頼される学校づくりの推進（地域はみんなの学校）

[晃陽地域学校園教育ビジョン]

「地域に根ざし、子どもが生き生きと活動する晃陽地域学校園」

－児童生徒の学習習慣の定着と学力向上を目指して－

4 教育課程編成の方針

（1）基本方針

- ・国、県、市の方針を受け、本校教育目標達成のための経営方針や努力点、学校評価の反省等を踏まえた編成
- ・基礎的・基本的な内容を重視しながら、創意工夫を生かした教育及び特色のある学校づくりを意図した編成
- ・カリキュラムマネジメントの視点のもと、教育活動全体を通して学校教育目標が達成されるような編成

（2）留意事項等

- ・教育課程全体のバランスを図りながら、学習指導要領のねらいが実現可能な指導時間の十分な確保
- ・問題解決的な学習や体験的な学習による、主体的・対話的で深い学びの実現と、思考力、判断力、表現力の伸長と教師が授業をコーディネートする力の向上
- ・学習形態や指導体制の充実やICTの効果的な活用による、個に応じたきめ細かな指導の充実
- ・道徳科の授業の充実による、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成
- ・外国語を通じて言語や文化についての体験的な理解と、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成
- ・総合的な学習の時間のねらいに即した、本校の特色を生かした横断的・総合的な学習や探究的な学習の推進と指導の充実による、SDGs等今日的な諸課題に対応していくための資質・能力の育成

- ・相互関連が十分配慮された特別活動の実施と、自発的・自治的活動を高める指導の工夫
- ・すべての教育活動を通した、互いに認め合い励ましあおうとする好ましい人間関係の構築と生活指導の充実、および「宮っ子の誓い」の意識化、実践化
- ・県・市の人権教育基本方針に基づいた、人権尊重の理念についての理解
- ・「元気っ子健康体力チェック」の結果を踏まえた運動の日常化のより一層の充実と健康で安全な生活を送ろうとする態度の育成
- ・自他の生命を尊重し、健康で安全な生活を営む態度を育成するための、交通安全教室や避難訓練等の効果的な実施
- ・一人1台端末を文具の一つとして授業の内外で日常的に操作、活用できるような、早期習熟の促進
- ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の実践と、インクルーシブ教育の理念を踏まえた特別支援教育の推進
- ・「宮・未来キャリア・パスポート」の活用による、自身の夢や目標を実現しようとする意欲や態度の育成
- ・地域に根ざした総合的な学習の時間「富屋ふるさと学習」や「宇都宮学」の推進による、地域を愛し、大切にしていこうとする態度の育成

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印。

- 【学 校 運 営】学校・家庭・地域の連携体制を基盤とした、地域に根ざした信頼と魅力ある学校づくりの推進【創意工夫と活力ある教育活動の展開】
- 【学 習 指 導】○自分で考え、進んで追究し、生き生きと表現することができる児童の育成
～基礎・基本を確実に定着させ、主体的に学ぶ態度を育てるための効果的な指導法の研究～
- 【児 童 生 徒 指 導】○生命の尊さを理解し、思いやりの心をもって正しく判断し、たくましく行動することができる児童の育成
- 【健康（体力・保健・食・安全）】○健康的な生活習慣を身に付け、積極的に運動に取り組み、進んで体力を高めようとする児童の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線。

項 目	評価項目	主な具体的な取組	方 向 性	評 価
	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上	① ICTを活用した教材・教具の工夫や、課題解決のための話し合い活動の場の設定を効果的に行う。 ② 朝の学習に「学力強化週間」や「チャレンジ学習」を設け、基礎・基本の定着と活学力育成を目指す。 ③ 学校だよりや学年だより等を通して、協働的な学習の充実を図った授業や児童の取組についての情報発信を積極的に行う。	B	【達成状況】 児 童 93.8% ・昨年よりも「学力強化週間」や「チャレンジ学習」を計画通り実施することができた。また、タブレットを効果的に活用することにより、自分から学習に取り組む態度が向上した。 【次年度の方針】 ・朝の学習の時間に基礎・基本を身に付ける問題や、活学力を身に付ける問題に取り組ませることにより、学力の定着を図る。

目 指 す 児 童 の 姿	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 道徳科の授業を通し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを育てる。 ② 人権教育年間活動計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。 ③ 各種特別活動において、他との交流を深める活動を取り入れ、相手の立場を考えて思いやる心を育む。 ④ 学校だより等を通して、人権教育について情報発信を行う。	B 【達成状況】 児童 93.1% 教職員 84.6% ・道徳の授業や日々の生活場面の中で、児童同士が互いに認め合う場を設定し、人権意識を高める活動が続けてきたことで、児童の思いやりの心が育ってきた。 【次年度の方針】 ・感染症予防の状況を踏まえつつ、特別活動において他との交流を深める活動や、人権教育週間の実施内容を工夫して取り入れながら、相手の立場を考えて活動する取り組みを継続していく。
	A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 生活当番を中心として児童の生活状況を確認し、重点的に指導すべききまりを設定し、全職員で共通理解して、きまりについての指導に取り組む。 ② 児童の実態に応じた月ごとの生活目標を立て、家庭にも周知して、ルールやマナーに対する意識を高める。 ③ 児童会活動などを通して児童自らがきまりの意義を考え、守れるよう工夫をする活動に取り組ませる。	B 【達成状況】 教職員 76.9% 保護者 92.4% ・児童指導連絡会や研修の場を設定し、実態に応じてきまりやマナーについて教職員が共通理解を図りながら指導してきた。ルールに対する児童全体の意識は向上してきたが、個人差も大きく定着には至っていない。 【次年度の方針】 ・児童の生活実態に応じて、指導の重点について職員間で情報を共有し、同一歩調で指導にあたる。 ・児童会活動など、児童の主体性を活かしながら、ルールやマナーを定着させる取り組みを継続的に実施していく。
	A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 教師自らが積極的に児童に声をかけ、日常から誰にでも元気なあいさつができる雰囲気醸成する。 ② 地域や保護者と連携したあいさつ週間を設定し、意識の高揚を図る。 ③ 児童会での活動などを通して、児童が主体的にあいさつについて意識できる機会を設けていく。	B 【達成状況】 教職員 38.5% 保護者 84.0% ・日頃から、教師自らが対児童、対教師等積極的にあいさつしたり、子どもたちに促したりすることで、進んであいさつができるようになった児童もいるが、少数である。 ・気持ちのよいあいさつができる児童は少ない。 【次年度の方針】 ・今年度に引き続き、教師が率先して児童に声をかけたり、場に応じてあいさつを促したりと、あいさつをする雰囲気醸成する。 ・具体的な場面を想定した挨拶の仕方について指導し、定着を図っていく。 ・感染症対策を行いながら、児童会などであいさつをテーマにした取り組みを行ったり、校内のあいさつ強化週間を設定したりと、児童が主体的な活動として捉えられる場を設定し、あいさつについて意識させていく。

A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ② 児童が粘り強く取り組む力を育むために、各教科の授業や行事において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を賞賛する。	B 【達成状況】 児童 88.9% 教職員 69.2% ・学校行事や学習や日常生活の面では、何事にも粘り強くあきらめずに取り組む様子に個人差が見られる。 【次年度の方針】 ・引き続き、児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、日々の授業で目標を明確に設定し、目標の達成を目指して授業に取り組ませるようにしていく。 ・教職員は児童の個性を認め、励ましや賞賛を意識した指導に努めていくようにする。
A6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 児童が自分の健康を管理できるよう、養護教諭と担任が連携した、保健指導や日常生活指導を行う。特に、メディアの使い方の指導を強化する。 ② 健康を意識した望ましい食習慣の形成を図るために、栄養士と連携した給食指導や、アンケートを活用した食育だよりでの啓発を行う。 ③ 危険を予測し自らの命を守り抜く行動力を育成するため、日常指導における安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。	B 【達成状況】 教職員 84.6% 保護者 92.6% ・保健だよりや給食だよりで健康に関する情報を周知できている。今年度は、コロナ予防対策が必須のため意識できている。 ・日常生活での危険予測や防災の意識が高まってきている様子がみられる。 ・メディア依存が心配される。 【次年度の方針】 ・引き続き養護教諭や栄養士と担任が連携した保健指導や給食指導、日常生活指導を行うとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。 ・教職員の安全点検を引き続き行う。 ・タブレットの使い方の指導を養護教諭と担任が連携して行い、健康面にも気を付けてタブレット等を使用できるように指導していく。
A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に取り組むとともに、キャリアパスポートを活用した家庭への啓発に努める。 ② 生活や総合の授業におけるふるさと学習を推進し、自分の住む地域のよさを知るとともに、地域の方との交流を図る。	B 【達成状況】 児童 88.9% 保護者 75.9% ・キャリアパスポートを十分に活用できなかった。 ・生活科や総合的な学習の時間の授業におけるふるさと学習を推進し、自分の住む地域のよさをしることができた。 【次年度の方針】 ・引き続き、宮未来キャリア教育や、生活科及び総合的な学習の時間の授業におけるふるさと学習を推進する。 ・キャリアパスポートの活用をより一層強化する。 ・自分の将来について考えさせる機会を設けるとともに、様々な業種の方などを招いてのキャリア教育にも取り組んでいきたい。

A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 外国語活動を通じて、言語や文化についての体験的活動を意図的に増やしていく。 ② 学校内におけるALTとの交流によって、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。	【達成状況】 児童 88.9% 教職員 76.9% ・今年度は感染症対策により、日常的な交流によるコミュニケーションをとることができなかったが、授業ではALTと積極的に関わる場面を設定してきた。 【次年度の方針】 ・ALTとの授業や日常的な交流による機会を作っていくことで、積極的にコミュニケーションを図る態度を育てていく。
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	① 生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業における「宇都宮学」や、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ② 教師自身が身近な地域や宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるように努める。	【達成状況】 児童 88.2% ・「宇都宮学」の中で宇都宮の良さに触れることができた。また、生活科・社会科・総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等において、児童は身近な地域の良さに気付く、宇都宮の良さと関連付けることができるようになってきた。 【次年度の方針】 ・生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら、宇都宮市の良さに気付く指導を充実させる。
A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① GIGAスクール構想の趣旨を踏まえ、児童がコンピューターや情報通信ネットワーク等の情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業においてICT機器を活用する機会を増やす。 ② 各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 ③ 読書の時間や教師による読み聞かせの時間、図書便りの発行等を通して、児童の読書意欲を喚起する。	【達成状況】 児童 91.0% 教職員 100% ・タブレットの導入により、様々な授業で活用を進めてきた。また、インターネットだけでなく、司書と連携して図書室の資料を用いた調べ学習なども積極的に行うことができた。 【次年度の方針】 ・児童がコンピューターや情報通信ネットワーク等の情報手段に親しみ、活用する機会を一層増やし、適切に活用する能力を育成する。 ・司書と連携した図書室の資料を用いた調べ学習などの機会を増やしていくことで、図書資料の活用を促していく。
A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 道徳科の授業を通し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを育てる。 ② 人権教育年間活動計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。 ③ 総合的な学習の時間・特別活動等で、可能な限り地域の高齢者と交流し、振り返りの機会を設けて感謝の気持ちや思いやりの心を育む。	【達成状況】 児童 93.1% 教職員 84.6% ・感染症予防に配慮しながら、総合的な学習の時間や学校行事を通して、地域の方や高齢者と直接交流をすることができた。感謝の気持ちとともに思いやりの心を実感することができた。 ・道徳の授業や日々の生活場面の中で、人権意識を高めることができた。 【次年度の方針】 ・感染症予防を徹底した上での交流の在り方について検討し、地域の方や高齢者への感謝やいたわりの気持ちを育てていく。

	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上	① 教職員自身も「持続可能な社会」についての関心を高め、児童へ自然や環境に関する各教科領域における学習、児童会活動での呼び掛け、学級での日常指導を通して環境問題に対する関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ② 危険を予測し自らの命を守り抜く行動力を育成するため、日常指導における防災教育を充実するとともに、地震や竜巻などの避難訓練等を計画的に実施する。	【達成状況】 児童 84.7% 教職員 69.2% ・児童は学級での日常的な指導や避難訓練を通して環境問題や防災等の意識が高まってきた。また、委員会活動において、学校薬剤師による講話を聞くことで、SDGsに関する知識を得ることができた。教職員については持続可能な社会に関する知識や意識について理解が足りていないところもある。 【次年度の方針】 ・教職員自身、持続可能な社会に関する知識や意識についてより一層学ぶ必要がある。そのため職員研修や月の目標等に盛り込んでいく。 ・学校で現在取り組んでいることや学んでいることが、「持続可能な社会」を実現することに繋がっていることに気付かせ、実感を持たせることができるよう、学校全体で指導を行っていく。
目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に対する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を行う。 ② 特別支援学級の児童はもとより、通常学級においても、必要において個別の支援計画を作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。	【達成状況】 教職員 100.0% ・支援委員会や、ケース検討会議などを通して、個に合わせた支援の在り方について、組織的に対応してきた。 ・各担当が支援計画を基に、保護者に働きかけをしたり、SC等を活用したり、家庭と学校と連携して支援を行い、対応してきた。 【次年度の方針】 ・組織的な対応と、保護者との積極的な連携を今後も継続する。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 日ごろからいじめは許されない行為であることを指導するとともに、いじめゼロ強調月間で、スローガン募集やゼロリボン着用、いじめゼロ集会等を実施し、いじめゼロへの意識向上を図る。 ② 「生命尊重」「人権尊重」を重点項目とした道徳科の授業を各学年で実施する。 ③ 学校での取組を学校だより・学年だより等で保護者に知らせる。 ④ 全職員がいじめの早期発見に努め、迅速に組織的な対応を行い、保護者との綿密な連携の元、いじめの解消に取り組む	【達成状況】 児童 95.8% 保護者 77.9% ・いじめゼロスローガンの作成、いじめゼロ集会の開催等、児童主体の活動を通して、いじめが許されない行為であることへの意識を高めた。 ・教育相談などを通していじめの早期発見・早期対応に努め、保護者と連携しながら常に学校全体で組織的に対応し、諸問題の解決を図った。 【次年度の方針】 ・いじめが許されない行為であることや、お互いを尊重することの大切さを重視した学級経営に努めるとともに、いじめゼロ強調月間の取り組みや日頃の人権教育の指導内容について、学年便り等の各種便りや、HP等で積極的に発信し、周知していく。

A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ② 教育相談、Q-U調査、欠席状況調査等の結果を活用し、不登校傾向のある児童の早期発見を行い、校内対策委員会を活用し、SCなどの外部人材とともに全職員体制で対策を講じる。	【達成状況】 児童 95.1% ・Q-U調査をもとにSCによる学級のアセスメント研修を行うとともに、学級経営の在り方や具体的方策について学校全体で検討し、実践を重ねてきた。 ・日々の学級や児童の様子について、全教職員が定期的に共通理解を図り、不登校傾向のある児童に対して組織的・継続的に対応してきた。 【次年度の方針】 ・今後も、自己肯定感を高め、互いを認め合える学級経営について学校全体で取り組んでいくとともに、教育相談等を活用しながら、不登校傾向のある児童や保護者への対応について組織的に行っていく。
A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 外国人児童について全校で共通理解を図り、必要な支援やニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ② 児童が、外国の文化に触れる機会を設け、それぞれの国のよさを尊重する態度を育む。	【達成状況】 教職員 100.0% ・道徳科や外国語科・外国語活動などから諸外国の文化について学ぶとともに、ALTや外国人子女との交流を通して、様々な人を尊重する態度を育成してきた。 【次年度の方針】 ・全職員が共通理解のもと、支援を行う体制づくりを進めるとともに、外国の文化を尊重する態度を育成する取組を継続していく。
A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「私は今の学校が好きです。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 児童の自発的な集会活動や学校行事等を通し、望ましい集団づくりと個に応じた指導の充実を図る。 ② 児童主体の特別支援学校や高齢者施設等との交流活動やホタル愛護、米作り、民話活動等の「ふるさと学習」の充実を図る。 ③ コロナ感染症予防を踏まえた新しい生活様式を取りながらも、生き生きと生活ができるよう児童へ前向きな意識付けを図る。	【達成状況】 児童 86.8% 保護者 88.8% ・ほとんどの児童が、毎日登校し、安心、安全な環境の中で明るく生き生きと学習や生活をしている。 ・コロナ感染症予防を意識した生活に適応し、コロナを意識しながらも明るい雰囲気でも過ごすことができています。 【次年度の方針】 ・引き続き、一人一人の児童理解に努めることで、個を認め望ましい学級集団づくりの充実を図っていく ・引き続き児童の自発的な集会活動や学校行事、また、学校支援ボランティアを活用した「ふるさと学習」の充実を図る。
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	① 授業のねらいや一人一人の課題を明確にし、板書の構造化や振り返りを工夫して、児童の思考や理解を深める授業の実践を図る。 ② PDCAサイクルを活用して指導の改善を図り、一人一人への支援の充実を目指す。 ③ 学年だより等を通して、協働的な学習の充実を図った授業や児童の取組についての情報発信を積極的に行う。	【達成状況】 児童 97.2% ・全教員が要請訪問等の授業の検討に関わり、反省・指導を生かした。授業のねらいや一人一人の課題を明確にしたり、児童の実態に即した授業展開を行ったり、振り返りやまとめ方の工夫をして学力向上に努めた。 【次年度の方針】 ・授業のねらいを明確にし、分かる授業を継続して行うことで指導の充実を図る。 ・学年だより等を通して、協働的な学習の充実を図った授業や児童の取組についての情報発信を積極的に行う。

A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 学校の諸課題への対応や、学校行事の実施等に、かがやきルーム指導員や学校司書業務嘱託員、SC等の専門性を生かしながら、全教職員が一丸となって取り組むよう努める。 ② 教職員一人一人の得意分野やよさを生かす組織運営に努め、困難を感じる業務について気軽に相談し、助け合いながら、同僚性を高めていく。	【達成状況】 教職員 100.0% ・各担任だけでなく、個々の教職員が小さな課題にも自分のこととしてとらえケース会議や打ち合わせ等を密にもち情報を共有し一丸となって対応している。 ・小さなことでも相談しあう土壌が醸成され、各人が「チーム富屋」を意識し、同僚性が高められている。 【次年度の方針】 ・多様な課題について全職員が一丸となって対応し、情報交換の場の設定や困り感に即座に対応できるように「チーム富屋」の一員を意識して物事に取り組む。 ・教職員のよさや能力を発揮できるよう校務分掌の適正化に努める。
A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 教職員一人一人が、自己の働き方を見つめ、勤務時間の効果的な使い方や業務の効率的な処理に努める。 ② 各種行事等の企画・運営及び授業・活動等においては、ねらいを明確にしながら、コロナの時代に応じた実施方法の工夫・改善を推進し、教職員の負担軽減を図る。 ③ 学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進めるために外部講師を活用するなど教職員一人一人が負担の軽減を図っていくよう努める。 ④ 「リフレッシュデイ」を意識することで日々の勤務時間を意識し仕事の効率化を図るよう努める。	【達成状況】 教職員 84.6% ・行事等が削減され負担が減ったものもある一方、授業や活動の見直しが求められ、それによる業務の改善が逆に負担感につながっているところもある。 ・タブレットの導入により、活用面、運用面での業務も増し、負担増を感じているところもある。 【次年度の方針】 ・行事の実施計画や授業・活動については今年度の経験をいかし、業務の効率化を目指し負担の軽減を図っていく。 ・引き続き、月1回の「リフレッシュデイ」を設け、勤務時間の更なる意識化を図る。 ・学習情報システムやタブレット端末を有効に使う中で「作業の効率化」を目指していく。ただし「効率化」が負担とならないように努める。
A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている。」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① あいさつ運動や中学校訪問、冒険活動教室での交流を円滑に行い、児童が中学校への期待をもつことができるよう努める。 ② 乗り入れ授業や部会ごとの業務連携などにより、教職員の交流・連携の充実を図り、教職員の資質能力の向上に努める。	【達成状況】 教職員 100.0% 保護者 86.1% ○コロナの影響で、あいさつ運動は実施したが、他の活動については縮小せざるを得なかった。しかし、オンライン会議で中学校とつながったことで、中学校進学への期待に繋げることができた。 【次年度の方針】 引き続き、中学生や保護者、他校小学生との交流を図り、中学校への期待を持つことができるよう努めていく。また、教職員の資質能力の向上につながるよう、小・中の教職員の連携の充実を図っていく。

A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し楽しい」 における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上 ⇒地域住民 85%以上	① 地域の人材や教育資源を有効に活用するとともに、人材の確保に努める。(富屋再発見、ホタル学習、学校田活動、地域施設見学、読み聞かせボランティア、民話活動等) ② 地域と連携した教育活動を推進する。(ファイトとみや、収穫祭) ③ 地域協議会との連携により、学校運営の充実を図る。	【達成状況】 保護者 86.4% 地域住民 100.0% コロナの影響で実施できないものも多かったが、その中でも、富屋再発見や学校田活動、民話活動、わくわくおはなし会などを感染防止に努めながら、工夫して実施した。例年に比べ、規模は縮小したが地域に愛着をもつ児童の育成につながっている。 【次年度の方針】 コロナの収束状況にもよるが、引き続き、地域の人材や教育資源を有効に活用し、地域と連携した教育活動を推進していく。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し楽しい」 における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上 ⇒地域住民 85%以上	① 地域の人材や教育資源を有効に活用するとともに、人材の確保に努める。(富屋再発見、ホタル学習、学校田活動、地域施設見学、読み聞かせボランティア、民話活動等) ② 地域と連携した教育活動を推進する。(ファイトとみや、収穫祭) ③ 地域協議会との連携により、学校運営の充実を図る。 【A22①、②、③再掲】	【達成状況】 保護者 86.4% 地域住民 100.0% コロナの影響で実施できないものも多かったが、その中でも、富屋再発見や学校田活動、民話活動、わくわくおはなし会などを感染防止に努めながら、工夫して実施した。例年に比べ、規模は縮小したが地域に愛着をもつ児童の育成につながっている。 【次年度の方針】 コロナの収束状況にもよるが、引き続き、地域の人材や教育資源を有効に活用し、地域と連携した教育活動を推進していく。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 毎月安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ② 時期に応じて熱中症予防や感染症蔓延に対する予防などを図るため、保健指導管理に努めたり、養護教諭や栄養士の授業参加を推進したりする。	【達成状況】 教職員 100.0% 保護者 93.0% ・必要に応じた迅速な修繕や保健指導管理などが行われ、児童にとって安心、安全な環境の中で学習や生活ができています。 ・夏季には暑さ指数(WBGT)を用いて熱中症予防対策を行った。また登校前の検温や健康観察を徹底したり、手洗いと手指消毒の呼びかけをしたりして、コロナ感染症予防対策を行った。 【次年度の方針】 ・引き続き危険箇所について迅速な改善や修繕に努め、時期に応じて熱中症予防や感染症に対する予防などを図るため保健指導管理に努める。

	A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① GIGAスクール構想の趣旨を踏まえ児童がコンピューターや情報通信ネットワーク等の情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、ICT機器の管理に努めるとともに、タブレットやクロームブックが活用できる環境を整える。 ② 各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 【A10②再掲】 ③ 読書の時間や教師による読み聞かせの時間、図書便りの発行等を通して、児童の読書意欲を喚起する。 【A10③再掲】	【達成状況】 児童 91.0% 教職員 100% ・GIGAスクール構想の開始により一人一台配備されるタブレットを、児童が活用できる環境を整え、授業の中で活用した。 【次年度の方針】 ・教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備を継続していく。 ・タブレット端末のより効果的な利用ができるよう、情報交換やICT支援員を講師とした校内研修を積極的に行う。
本校の特色・課題等	B1 児童は、学校の授業や家庭学習に意欲的に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上	① 授業中の挙手やグループ活動など進んで積極的に行っていけるような意欲や態度を育成する。 ② 宿題や自主学習など進んで取り組み提出も忘れずに行っていくように支援していく。	【達成状況】 児童 86.1% 教職員 92.3% ・授業ではめあてを明確化し、それに沿った学習活動や振り返りを行うことを継続してきたが、挙手や積極的な発言など学ぶ意欲の育成については個人差が大きい。 ・家庭学習については強化週間などで定着を図っているが、取り組みの内容・時間等に見られる個人差が大きい。 【次年度の方針】 ・引き続き各教科・学年に応じた授業改善に努め、児童の変容を教職員で共有し学ぶ意欲を高めていきたい。 ・家庭学習の習慣づけや意欲・意識を高めるためにA1ドリルやタブレットを活用した宿題や自主学習の工夫をしていく。
	B2 地域の様々な人々とのふれあいを大切にした活動を推進している。 【数値指標】 全体アンケート「様々な交流活動や運動会、収穫祭等の地域の活動に参加し、様々な人々とふれあっている。」 ⇒児童 85%以上 教職員 85%以上	① 富屋特別支援学校の児童・徳次郎保育園や山王認定こども園の園児・デイサービスセンターや地区独居老人との交流、祖父母参観を通して、多様な人々とふれ合う機会を設ける。 ② 地域の特色を生かした運動会や収穫祭の内容を工夫し、様々な人々とのふれあいを深め、地域への愛着を深める。	【達成状況】 児童 92.4% 教職員 100.0% ・コロナにより様々な交流が中止になったがDVDを作成するなど直接かわらずに交流できるような工夫をした ・地域の特色を生かしたかわりが生まれ、地域への愛着の心が育まれている。 【次年度の方針】 ・今年度の成果を生かし、更に良い交流活動にしていけるように工夫したり、意見を取り入れたりしていく。 ・地域の方々の意見等を反映し交流の内容、方法を一層深められるようにしていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・基礎・基本を確実に定着させるため、児童の実態に即した授業展開や振り返り、まとめ方を工夫して学力向上に努めたことで、児童は落ち着いて学習に取り組んでいる。しかし、「GIGA スクール構想」における ICT 等の効果的な活用については、まだ学習の途上であり、次年度も引き続き課題となる。
- ・児童の学習活動への取り組みを発信し、家庭に対し家庭学習の必要性を説き協力してもらっているが学習時間や学びの質については個人差が大きい。今後も家庭学習と成績の関係を示すなど、更なる協力を仰ぎ、授業への意欲的な取り組みにもつなげていきたい。
- ・保健・食育・体力向上に関して、多くの項目で高い肯定的回答を得ている。しかし、ゲームやメディアに触れている時間や、夢や目標に向かって取り組むこと、持続可能な社会に関する意識などに課題が見られる。また、コロナ禍の学校活動についても引き続き、一層の工夫や取り組みの継続が求められる。そのため今後は、授業形態を工夫したり、情報や成果物を家庭と共有して連携を図ったりするなど、児童・保護者の健康とキャリアや「持続可能な社会」に対する意識の向上を図りたい。
- 校内での挨拶に関しては意識の定着が図られていない実態が見られた。より一層、教師からの働きかけを継続するとともに、児童主体の挨拶に関する取り組みを強化していくなど、さらなる取り組みが必要である。きまりやマナーを守ることについては、守るべき・心掛けるべきルールを改めて明確にしていくとともに、学校全体で共通理解を図り、家庭・地域と連携しながら指導にあたっていきたい。
- ・「互いのよさを認め合い、思いやりのある心をもって行動できる児童の育成」については、道徳の授業や日々の生活場面の中で、互いのよさを伝え合うような場面を設定し、継続的に実践してきた。引き続き、児童の自己肯定感を高めていけるような取り組みを実践していく。
- A 2 1 の小中一貫教育・地域学校園活動への取り組みについて、教師、保護者・児童ともに数値指標を超える肯定的回答が得られた。給食のメニュー開発や図書館だより、6年生と中学生によるオンライン会議など、小中を結ぶ地道な活動が評価されたものであると思われる。
- ・本校の強みである、A 2 2 「地域の教育力を生かした特色ある教育活動の展開」、A 2 3 「家庭・地域・企業と連携・協力したよりよい児童の育成」については、コロナ禍の影響により、内容が縮小化されたが、できる範囲で実施できたことで、「地域とともにある学校づくり」の有用性を改めて知る結果となった。ここを基盤に多くのことについてさらなる深化・深長を目指したい。
- ・「チーム富屋」を各人が意識し、学校及び学級経営にあたっていた。課題に対しても個人の責任にするのではなく、チームとして対応にあたり解決の方策を探り、一定の効果も得た。
- ・コロナ禍において、緊急事態中など仕事量と勤務時間のバランスが保てた時もあったが、通常の状態においては仕事量と勤務時間の平衡は保てない時が多かった。人数が少ない分、削減を含む仕事内容の見直しは喫緊の課題といえる。

7 学校関係者評価

- ・社会全体の流れだが、先生方の働き方が議論されている。コロナ禍で行事が削減された分、衛生管理やタブレット端末導入など別の業務が負担増になっているように思える。小学校単独でできることは限られるが、できることから見直し先生方の負担軽減を図っていただきたい。児童は先生方に余裕がない状況には敏感である。学校は勉強を教えることも重要であるが、大人に成長するまでの人間形成に大切な場所だと考えている。昔のようにとは言えないが先生と児童が遊んだり話をしたりできる余裕のある学校環境の整備をお願いしたい。
- ・児童一人に一台タブレット端末が貸与されている。長期休暇の時の宿題等に活用されているが、コロナ禍で登校が出来なかったり短縮授業になったりした際は自宅にいてもできるオンライン授業は有効であるので体制の確立をお願いしたい。
- ・学校独自項目である「地域の様々な人々とのふれあいを大切に活動の推進」については、肯定的回答の割合が高くなっている。地域協議会を核とし、学校と地域が協力し合っただけの成果であり、さらに連携して深化を目指したい。今年度は、コロナ禍にありながらも方法を工夫し地域学習ができたことは、児童の活動に有効であった。コロナ禍で以前の様な活動ができないが、次年度は「何ができるのか」「どのようにすればいいのか」を考える必要がある。暫くコロナ禍は続くと思われるので新しい生活様式に沿った教育活動をお願いしたい。
- ・教職員は、学級経営への取り組みや分かりやすい授業、きめ細かな指導等、多くの項目で肯定的回答が 100%と高く、熱心に取り組んでいることが分かり、ありがたい。
- ・児童生徒に対する評価は、教職員と児童との間に意識のずれがあるようだ。教職員は質問に対し肯定的回答が低く、児童は高くなっている。特に、「時と場に応じたあいさつ」に関しては教職員の評価が非常に厳しい。「あいさつ」は、朝だけではないので、いつの場面で評価するかを焦点化してみてもどうだろう。朝のあいさつは、なかなか声が出ない児童がいるのが現状である。どのような手立てを講じると意欲的にあいさつができるのかを具体的に検討してほしい。児童が自ら意欲的にやれる取り組みを教職員と児童とが話し合っただけの実践してみてもどうだろう。活動としては、全体で喜び合える活動、頑張っ

た成果が見える活動など、学校全体での取り組みとし、できたら褒めて意欲を高めさせたい。また、「あいさつは家庭から」と言われる。大人をどう巻き込んでいくかが課題である。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学習指導】

- ・基礎・基本を確実に定着させるため、児童の実態に即した授業展開や振り返り、まとめ方を工夫して学力向上に努めたことで、児童は落ち着いて学習に取り組んでいる。家庭に対し家庭学習の必要性を説き協力してもらっているが、学習時間や学びの質については個人差が大きいので、更なる協力を仰ぎ、家庭学習の充実から授業への意欲的な取り組みにつながるようにしていきたい。
- ・児童一人に一台タブレット端末が支給され、長期休業の時の宿題等に活用されているが、「GIGA スクール構想」における教職員の ICT 等の効果的な活用については、まだ研究の途上であり、次年度も引き続き課題となる。

【児童指導】

○校内での挨拶に関しては意識の定着が図られていない実態が見られた。教師からの働きかけを継続するとともに、児童主体の挨拶に関する取り組みを強化していくなど、さらなる取り組みが必要である。朝のあいさつは、なかなか声が出ない児童がいるのが現状であり、児童が自ら意欲的にやれる取り組みを教職員と児童とが話し合って実践してみる等、具体的に検討したい。きまりやマナーを守ることについては、守るべき・心掛けるべきルールを改めて明確にしていくとともに、学校全体で共通理解を図り、家庭・地域と連携しながら指導にあたっていきたい。活動としては、全体で喜び合える活動、頑張った成果が見える活動など、学校全体での取り組みができたらと思う。できたら褒めて意欲を高めさせたい。また、「あいさつは家庭から」と言われる。大人をどう巻き込んでいくかが課題である。

【健康・体力】

- ・ゲームやメディアに関する意識などに課題が見られる。また、コロナ禍の学校活動についても引き続き、一層の工夫や取り組みの継続が求められる。今年度は、授業形態を工夫したり、情報や成果物を家庭と共有して連携を図ったりするなど、児童・保護者の健康とキャリアや「持続可能な社会」に対する意識の向上を図りたい

【特色ある教育活動】（コロナ禍でのかかわりの工夫をしながら）

- 給食のメニュー開発や図書館だより、6年生と中学生によるオンライン会議など、小中を結ぶ地道な活動が評価された。今年度は、コロナ禍にありながらも方法を工夫し地域学習ができたことは、児童の活動に有効であったと思われる。コロナ禍で以前の様な活動ができないが、次年度は「何ができるのか」「どのようにすればできるのか」を考える必要があり、新しい生活様式に沿った教育活動を展開したい。
- ・「地域の教育力を生かした特色ある教育活動の展開」や「家庭・地域・企業と連携・協力したよりよい児童の育成」については、コロナ禍の影響により内容が縮小化されたができうる範囲で実施できたことで「地域とともにある学校づくり」の有用性を改めて知る結果となった。今年度についても地域協議会を核とし、学校と地域が協力・連携し合ってさらなる深化・深長を目指したい。